

氏名	高 橋 常 雄
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	乙 第 1629 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和61年 3 月31日
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）
学 位 論 文 題 目	Follow-up Study of the Cup Supporter (F-S type) in Total Hip Replacement (岡大式カップ支持器の臨床応用に関する研究)
論 文 審 査 委 員	教授 寺本 滋 教授 折田薫三 教授 村上宅郎

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

寛骨臼突出症の治療としての全人工股関節置換術において、カップを正確に解剖学的位置に固定し、しかも内方突出を防止することが重要である。カップ支持器はこうした目的のために 1977 年岡山大学医学部整形外科学教室で開発され、25例30関節に応用された。

平均 2 年 8 カ月の予後調査の結果を臨床的及びレ線学的に分析した。その結果は、臨床的には日整会变股症判定基準で術前平均 30.0 点・71.0 点に改善し、特に疼痛では術前平均 3.7 点から 34.7 点と著明な改善をみた。またレ線学的にはカップは理想的な解剖学的位置に 57% が固定され、カップのゆるみも宇野の判定基準で 83.3 % にゆるみなしと判定された。

カップ支持器は、慢性関節リウマチにおける寛骨臼突出症のみならず、人工骨頭置換術後の内方突出、骨構築の破壊された全人工股関節再置換、外傷性股関節脱臼骨折例に対する全人工股関節置換術に応用され、いずれも良好な成績であり幅広い臨床応用が可能ながわかった。

また臼蓋底の骨構築が菲薄化した 5 例に自家骨移植を併用し、非常に有効な手段になることが明らかになった。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は、1977 年岡山大学医学部整形外科学教室で開発されたカップ支持器を使用した全人工股関節置換術症例 25 例 30 関節について、臨床的ならびにレ線学的に検討したものであって、その臨床応用に関する重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。